

我がまちの支え合い活動 船穂地区

船穂

上鳥向自主防災組織

設立から15年



船穂地区で行われた児童と地域住民合同の防災講演会の様子。子どもだけでなく、大人だけでもない。大切なことは世代を問わない。この防災講演会へ上鳥向自主防災組織のメンバーはサポートする側として参加協力しています。



上鳥向町内会は現在58世帯。防災研修会と炊き出し研修の様子。毎年行っている防災研修会には、子ども達の参加も多く防災啓発とともに地域ぐるみの、世代交流の場になっています。



わがまちの様子

総人口	7,182人
高齢化率	29.07%
高齢者支援センター	船穂
地域のトピック	令和4年に94才になる岡村英子さん(写真右)と船穂米子さん(写真左)は鳥向サロンに参加する地域のお達人さん♪▶元気の秘訣は? 「ちゃーちゃー言うこと(笑)」(岡村さん)「登校の見守り」(船穂さん)

上鳥向町内会は、ご近所のゆるやかな見守りが根づく地域です。その一助を担っているのが、平成19年4月1日設立の船穂上鳥向自主防災組織です。町内の交流を図り、向こう三軒両隣の関係を大切にしていくなかで、効果的な活動を模索していった当時の町内会長や役員は、誰もが関心を持ちやすく、日頃からのつながりが重要な地域の防災活動こそこの町内のこれからの必要だと考え、自主防災組織を設立しました。設立から15年、この自主防災組織では要援護者台帳を基に独自の連絡網を作成していますが、これは緊急時の声掛けだけでなく、日ごろからのゆるやかな見守りづくりにも役立っています。



柳井原地区の互近助パントリーサポーター。コロナ禍で大勢で集えなくても1対1だと密にならず、話も弾みます。

柳井原小学校区クラウドゴルフ同好会。名前で呼び合える気の置けない仲間たちです。



柳井原・堅盤谷サロンの有志でサロンの参加者などにマスクを作ってお渡ししています。

柳井原

和気あいあいでの顔の見える関係づくり

わがまちの様子

総人口	828人
高齢化率	31.52%
高齢者支援センター	船穂
地域のトピック	柳井原グラウンドゴルフ同好会は毎週木曜日・日曜日 8時30分から柳井原第4公園で活動。冬期は9時30分から。柳井原・堅盤谷サロンは毎月1回 第2水曜日10時〜工夫を凝らして開催しています♪

柳井原地区は、人口の約18%が後期高齢者、5人に1人は75歳以上の地域です。グラウンドゴルフやサロン活動が盛んで、なかにはグラウンドゴルフからサロンへはしご参加される方もいます。一方、集うのが苦手な方や開催場所まで行くことのできない方も。そういった方には、※互近助パントリーサポーターさんがちよつと寄り添って切らさない工夫をしています。

※互近助パントリープロジェクトについては、P20の下段をご参照ください。

我がまちの支え合い活動 真備地区



まちづくり主催の「冬まつり」で「川辺復興プロジェクトあるく」が行った防災に関するアンケートの様子。

わがまちの様子

総人口	4,077人
高齢化率	27.84%
高齢者支援センター	真備
地域のトピック	川辺地区の老人クラブは毎月、百歳体操、体操、手芸、調理、グラウンドゴルフなど活発に活動しています。「明日は〇〇があるよ」とご機嫌伺いも兼ねて電話で声をかけあっています。



川辺地区の防災訓練で、掲げることで一目で安否が確認できる「黄色いタスキ大作戦」が行われました。川辺地区全世帯の60%以上が参加！関心の高さがうかがえます。



タスキで紡ぐ

川辺の防災意識と絆

平成30年7月豪雨災害以降、川辺地区の共通のテーマは「逃げ遅れゼロを目指す」です。

まちづくり推進協議会は、地域の各種団体と協力し、「町内会どうなっている会」や「川辺みらいミーティング」の開催回数を重ねています。

また、小地域ケア会議では「防災・減災には普段からのつながりが重要」という共通認識のもと、普段からのゆるやかなつながり方を模索しています。

さらに、情報が得にくい方へも届きやすい情報ルートを開発するために、様々な場所や社会資源と協働し、普段の掲示場所＋αの場所での黄色いタスキPRのポスター掲示も進めています。



コロナ禍で集まって話し合うことが難しいなか、オンラインも活用して検証を続けました。

わがまちの様子

総人口	3,744人
高齢化率	37.74%
高齢者支援センター	真備
地域のトピック	岡田地区は歌声喫茶が盛んで、被災後も再開を望む住民の声で復旧前の分館にて開催されたほど。民生委員の見守り活動も手厚く、普段から気かけ、顔を会わず機会を大事にしています。

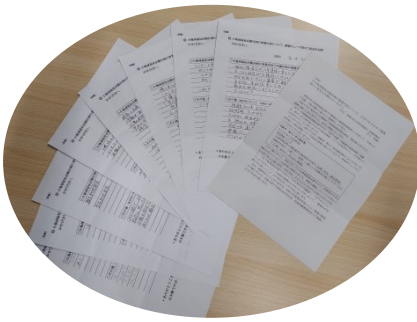


岡田を災害に強いまちに

大学の先生の協力を得て、高齢者や子育て世代など、多くの住民から集まった意見をまとめました。

岡田地区では、災害の正確な記録を残すために、早い段階で住民の経験と情報をまとめました。そして、二度と地区で逃げ遅れが起きないよう、避難に関する内容も盛り込んだ冊子「岡田を災害に強いまちに」の①に「が、被災から1年半後にできました」。

その後も検証を続け、被災後の暮らしのなかで感じたことや、地区で行われたボランティア活動などの情報もまとめていきました。被害の有無に関係なく、地区のみんなが大変な思いを経験したことを共有し、これから地域や個人でできることを考えるきっかけにもなる第2弾の冊子が完成しました。



コロナ禍で集って意見交換ができない年は、文書で意見を交わし合います。

わがまちの様子

総人口	3,952人
高齢化率	33.35%
高齢者支援センター	真備
地域のトピック	藪小学校が発行した防災教育副読本「西日本豪雨災害の教訓を未来へ」が被災の伝承や防災啓発のために令和3年度、藪地区全世帯に配布されました。



話し合いの中から生まれた事業『満1歳誕生日祝い(写真右)』『見守り活動(写真右上)』『ふれあいウォーク(写真左上)』つながることで見えてくる、地域で暮らす安心感。



安心して豊かに暮らせる

地域であるために

藪地区社会福祉協議会は、平成17年度から※小地域福祉活動計画を策定しています。毎年、学区内の団体が一堂に会し、それぞれの活動内容を共有したり、地区社協と一緒にできることを検討したり、また団体から見た藪学区内の『気になること』を出し合ったりします。毎年繰り返し行うことで、藪地区内での団体間の連携が深まり風通しの良い地域づくりにつながっています。

※小地域福祉活動計画とは、地域の福祉課題に対して地区社協が計画的に取り組んでいくための中期的な活動計画です。



男性
パワー！！



地域のトピックから飛び出しました！「若葉共助会」の皆さんです。

わがまちの様子

総人口	2,073人
高齢化率	47.9%
高齢者支援センター	真備
地域のトピック	若葉台団地内の公園清掃・管理ボランティアで活躍している男たちの会「若葉共助会」。毎月第3土曜日に定例会もあり、団地内の色々な作戦会議が繰り返されます。



「どこの子(孫)かな？」走り回る子ども達を皆が温かい目で見守っています。



『ふな飯』でつながる地域

この地区に住んでいる人なら、皆知っている食べ物がある『ふな飯』です。その単語だけで老若男女を超えて語り合え、しかも栄養満点。食べれば心と身体がほぐれ、人と人をつなげる「ふな飯」を次世代へ伝えるだけでなく「食」を通じて多世代がつながる集いを続けているのが二万地区社協です。コロナ禍の最近では、一斉に集まらず、三々五々に集まる「食堂」方式で、入れ替わり立ち替わり地域の人々がやってくるさまは、まさに人気の「地域食堂」です。「しばらくぶり」と話が弾み、ちょっとした支え合いの作戦会議へ発展することもあります。



箭田

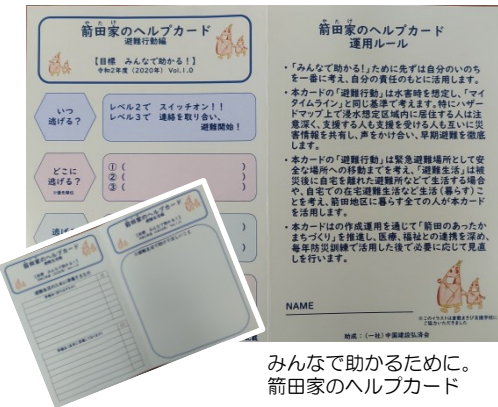
箭田家のヘルプカード



みんなで助かるために。
箭田家のヘルプカード

研修は皆で地域を知ることから。学区内の様々な地縁団体、行政、高齢者施設、障がい者施設。幼稚園、小学校、中学校、高校、支援学校…多くの方々と一緒に研修会や、作戦会議を重ねています。

箭田地区では、平成30年7月豪雨災害の後、居場所のわからない方が多くなったという反省から、みんなで助かるために先ずは自分の命を一番に考え、自分の責任の下に活用できる「箭田家のヘルプカード」を作成しました。まちづくり推進協議会の呼びかけに、学区のなかにも多くの団体や関係機関、防災活動に興味のある住民が参加し、何度も研修会や振り返りの会を重ねました。そうすることで、より強固な関係が築かれました。また、このカードを浸透させるために、一人ひとりから家族や近所へ、近所の数人同士のつながりへ、町内へ、つながり合って学区全体のつながりを生むよう、小さな単位で取りこぼされたい仲間づくりも視野に入れて活動しています。



わがまちの様子

総人口	4,263人
高齢化率	33.33%
高齢者支援センター	真備
地域のトピック	駅・支所・病院・老人保健施設・デイサービスセンター・小規模多機能施設・障がい者施設・幼稚園・小学校・中学校・高校・支援学校・スーパー・公民館・運動公園など多くの社会資源があります。

PTA有志、地区社協、地域のボランティア等、事業に共感した方がお手伝い。「大変じゃけど楽しいで。」



「トリックオアトリート」「お菓子をくれなさいたすらすらすぞ。」おばあは子供たちのためにお菓子配りの役を、子どもたちは一人暮らしのおばあを励ましに。

わがまちの様子

総人口	1,826人
高齢化率	41.56%
高齢者支援センター	真備
地域のトピック	各種団体の会合をはじめ、有志の集いやサロンなど様々なところで防災から近所のちよっとしたことまで語り合っています。それが「要配慮者マイタイムライン」の作成に地域を挙げて取り組んでいるきっかけになっています。

呉妹

『気負わない』が支える地域

「防災ばあ」
防災に興味のある方はだれでも参加可能です。地元の企業（福長建設）の倉庫を借りて集まっています。



呉妹地区で行われている様々な支え合い活動のキーワードは、「知らず知らずに支え合い」です。地元サロンの参加者が、ある時は、地域の施設のイベントで配るお菓子の袋詰めを手伝っていたり、普段は気がかけ、見守られる側の子ども達も、敬老の祝い品に添える手紙を書いたり、地域を盛り上げる活動の担い手だったりします。ちよっぴりの義理とたくさんの楽しみで参加していたら、それが知らずと地域の誰かのためになって、「一緒にワイワイしてるとたのしいよね」「ありがたうって言われると嬉しうね」「聞き合える地域です。」そんな会話がよくなる。

服部

見守り、支え合い活動

服部地区見守り支え合い活動の五カ条。
小地域ケア会議の開会前に毎回唱和
しています。



平成26年3月に、地域の住民の方に行った服部地区の
気になることのアンケートの結果から、この見守り・
支え合い活動は始まりました。

見守り、支え合い活動の
心得え 五カ条

- 一、ときどき顔をあわせて
「どがあなかなあ」の声かけ
- 二、根ほり、葉ほりたがねるよりも
「あなたの話を聞かせてちょうだい」
- 三、聞いた話は、うわきにしない
「信頼関係の第一歩」
- 四、ほんの小さな励ましの一言が
心と心のつながりを深める
- 五、困った事があったら いつでも
事務局へ相談して

わがまちの様子

総人口	513人
高齢化率	39.96%
担当高齢者 支援センター	真備
地域の トピック	被災後、自主防災組織が4箇所 新たにできました。住民の方た ちの防災意識と地域のなかにあ る様々な社会資源が上手につな がった結果です。

服部地区の見守り支え合い活動は被災を経験する以前から、平時の見守りだけでなく災害時の声掛けの必要性の有無を織り込んでいました。一人暮らしの方だけでなく、昼間に一人になる方のところにも、家族や本人が希望すれば声をかけています。そういった見守り支え合い活動が被災時に無事避難することができた要因にもなりました。

見守りをする方が当番制で年度ごとに交代する地区もありますが、人が変わることをマイナスに捉えず、新たなつながりができることをお互いに楽しむ余裕を持ちながら、ゆるやかにしかし確かにつながりが根づいています。

ささえあいのぽいんと **その4**

元気な地域づくりを市域で応援！「高齢者活躍推進地域づくりネットワーク会議」

「年齢を重ねても、住み慣れた地域で元気で活躍を続けたい」

そんな元気な地域づくりを応援するためには、関係機関もまた、ネットワークを構築しながらそれぞれの得意分野を発揮しながら地域に寄り添い続ける必要があります。

高齢者活躍推進地域づくりネットワーク会議はそのような支え合いの仕組みづくりを倉敷市域で検討・協議しながら、様々な活動を通してもっと支え合いの輪を広げる取り組みを行っています。

どんな活動をしているの？

1. 地域づくりの活動に取り組みます。
 - ・通いの場ガイドブックや事例集の作成
 - ・支え合いのまちづくりフォーラム
 - ・サロン交流会 等
2. 新しい支援体制を構築します。
3. 既存の支援・新たな支援を各所属で連携しながら応援します。

